

波動の世界へ



随筆

鈴木計夫*

この表題は——最近の巷の本をいくつか見てみると、どうも世の中根本的に変わりつつあるようだ。現在の物質文明、物質至上主義、エゴの世界から、精神文明、霊文化、エヴァの世へと否応なく変わるようだ。そこでは、物質でさえも波動そのものとして理解され、テレパシーも、霊も科学となり、“あの世”とも連絡がとれるようになる。さらに人々の心は“我欲”から“人への愛”に変わり、病気も“波動的”に自分で治せるようになる…。21世紀はそんな世になるようだ。——を縮めたものである。

危険予知能力の話

阪神大震災からすでに2年が経ち、直接の被害者でなかった人には、あの惨状は今や過去の記憶として日常生活の中に埋没しつつある。しかし最近これに関連したある本に出会った。

ある時間待ちの時にある書店の前を通り掛かって新刊本の列を目で追っていた所“…事故死突然死…”の文字が目に入った。「?…、縁起でもない、いやな題目の本だな……」という考えが一瞬心の中をよぎり、そこをそのまま通り過ぎた。が、何か心に引掛かるものを感じてその場所に戻り、改めて本の表題を見ると“5秒で予知する事故死、突然死”とあり、また表紙の下の方には、“読まずに死ぬな、読んだら死ぬな”ともあった¹⁾。

私がこの本に気を引かれたのは、後に述べる地震の前兆現象とも何か関係づけられるかも知れない、と気付いたからである。

先ずこの本に示されたその簡単な予知の方法を要約してみよう。それは読者の皆さんを思わぬ事故等から未然に救うことになるかも知れないからである。

“右手(あるいは左手)の親指と人指し指でノ

ド佛付近を挟むようにして、ノド部の脈を感じる位置に右手を当てる。次に左手(あるいは右手)でノドに当てている手の手首部の脈を計れるように手を当てる。これで準備完了である。次にこの両方の脈を計り一致していれば大丈夫、もし脈拍数が約15回/分以上の違いがあれば、違い始めてから24時間以内に死に直面する何かが起こる”というものである。これは違い始めてから、であるからそれが起きるまでの時間は既に24時間を切っていることになる。それでは一体どんな危険が待ち受けているのかを知る方法の例を示す。

例1：脈の違いに気付いたその場の近く、あるいは居合せた人々に計ってもらう。皆んな違っていればその場所が危ない。更に念を入れてその場(建物等)を離れた所(野外等)で計ってみる。誰の脈も正常に一致していれば、先の場所(建物等)において例えば地震による建物の崩壊、あるいは、火災等が起こることになる。

例2：旅行のときなど、利用する飛行機、電車、自動車等に乗る前に計ってみる。合っていれば24時間は大丈夫、違っていれば一緒に乗る人、そうでない人に計ってもらって起こる危険が何なのかを探り出す。

このような例からも分かるように脈の違いに気付いてから、かなりの範囲、確実度で、その場所、時間、危険の種類などを特定できる。

病気の場合は殆ど個人的であろうから、それに見合う特定の方法で探ることになる。

脈が違うなんてそんな馬鹿なことが…、と眉



*Kazuo SUZUKI
1933年5月29日生
京都大学大学院工学研究科建築学
専攻修士課程修了
現在、大阪大学工学部建築工学科、
教授、工学博士、建築構造学
TEL 06-879-7635
FAX 06-879-7637

にツバをつけておられる方はこの辺でお引き取りいただいて結構であるが、何しろこれは考えてみれば我々の一生に一度か二度、あるかどうかという現象の話であるから、普通には信じ難いことも確かであろう。

しかし、例えば現在交通事故で亡くなる人が日本だけで年一万数千人、これは十年毎に中程度の都市一つが消滅していることになるという大変な出来事であり、他人事ではない事実である。しかも、自然界の動植物に対し、“我々は万物の霊長である”と自負している人間がこのような交通事故や、今回の阪神大震災のような自然災害においても、その一分前はおろか一秒前まで迫って来る危険を察知できなかつた、という歴然たる事実を考えてみる必要がある。文献²⁾には、阪神大震災を察知できた動物達の異常行動の例が数多く収録されている、一いつも夜明けと共にさえずる小鳥達はその日は前の真夜中にやかましい位に鳴き騒いでいたとか、いつもおとなしい飼猫が前日狂ったように家の中を走り廻ったとか、籠の中のつがいのインコが何か興奮状態で果ては友食いをしたとか、その他犬の興奮、ネズミの移動、…等々。万物の霊長と自負する人間どもは、危険の一秒前まで察知できないのに、動物達にはこのように分かるということはどういうことなのか、を私は前記の脈の話と合わせて次のように解釈している。

本来動物であろうと人間であろうと、生きているものには生体予知システムが備わっており、危険や異常が迫っている場合は、生体にその警告が、例えば脈の違い等となって現れる。動物達は常に“自然態”に生きているのでそれを容易にキャッチして、危険をさける、あるいは閉じ込められて逃げられない状況に置かれていればあばれ廻る、狂乱状態となる、などの行動を起こす。人間は、動物達のように自然態ではなく、現代科学、現代医学を信じ込んでいるので、五感での“感じ”、“痛み”等が生じない限り知るよしもなく、自分の体からの声、細胞からの警告を感知できない。“虫の知らせ、胸さわぎ”などもナンセンスなこと、として処理されてしまう。すなわち、本来備わっている感知能力が物質主義に根差す現代科学のゆえに退化してし

まっていると考えられるのである。

気功の話

脈の話は未だ物理現象的であり理解し易いが気功は目に見えない何かである。これも出張中ふと立寄った本屋さんで手に取って、その著者が元ニュースステーション、CNN等のキャスターであったこと、毎日を生き生きとさせる「気功」健康法が誰にもできると書いてあり、もちろん以前から関心があったので早速購入して³⁾、先ずその初段階を実施してみた。両方の手の平を胸の前で数cm程離して向い合わせ、その間の空間が何か波動のようなもので繋がれた状態を想像していた所、1・2分もしないうちに粘着性の何かで結ばれているような感覚がでてきた。そこで手の平間の距離に微小変位 $\pm\delta$ を手の力を抜いた状態で与えた所、明確に吸引反発の反応を感じる事ができた。これは初歩の初歩で少し修練を積めば体の患部の状態も感じとれ、治療も可能となるようである。

その後、家に留学生を十人程招いたときこの気功の話を持ち出したところ、その中の一人が、「実は私の妻がそれをやります」ということであつた。筆者の妻は、いつもひどい肩こりであつたので早速お願いした所、数分位の手かざしで不思議とひどかった肩こりが無くなってしまった。その奥さんのお話では、「もう少し奥深い所に何かがあつたので、それも除くべく上海にいるお師匠さんの力を借りようとしてみたが、巧くゆかなかつた」とのことであつた。妻に、どんな感じがしたのか聞いた所、首や肩の辺りにスースー風が吹いていたそうである。不思議なことにその後2、3カ月の間、どんなことをしても妻からは肩こりが無くなっていた。

ちなみにその奥さんの中国の気功の練習の方法、気構え方の一部をそのメモから抜き出せば、“……、私は地球の磁場の中にいる。体内の生物磁気が地磁気に磁化されて規則正しく並び…”とか、“宇宙の真気(身体によい気)の中に私の身体はあり、天・地・人一体となり……”を強くイメージするように指示されている。

また文献³⁾では、体の動きと連動させた呼吸に際しては、吸うときは上記のように宇宙の新鮮な気を体、特に患部にとり入れ、吐くとき

は体内の汚れが放出されるのをイメージするよう説明されている。

ここで気がついたことは、現在の科学、医学では、呼吸は O_2 を吸って CO_2 を吐き出すということになるが、上記のように宇宙、磁気、波動、……等まで考えを広げると、吸うときは O_2 だけでなく宇宙の新鮮な“気、波動”も吸っているのであり、吐くときは体の“気”の汚れも吐き出しているのだということである。これを意識した呼吸をすれば、我々の体は肉体のみでなく精神も、よりフレッシュになろうというものである。なお、“気”が存在することを分りやすく科学者が説明した本もある⁴⁾。

21世紀の話

簡単な例えでいえば、 $1 + 1 = 2$ が唯一正しい答、とするのが物質、固体を基本とする現代の科学であるのに対し、 $1 + 1 = 2$ は無数にある正解の中の一つの答、とするのが21世紀での“超科学”ではないかと考えている。そしてその超科学の中に今の科学がその一部として含まれることになる。そして、今の超能力、予知、予言を売り物にしている宗教はとりあえず、この超科学の中に入り、いつれは科学も真の宗教も統合された状態になるのではないか。ちなみに現在の物理学で最も小さな粒子とされる素粒子に対し、実際はその $\times 10^{-17}$ 倍位の大きさが本当の最小粒子であって、これが宇宙には充満しているといわれている。もちろん粒子ではあるが波の性質も合わせ持っている。

そういうことであれば、“気”も説明できる筈であり、また我々の喜びや悲しみ、怒り等の思いは波動エネルギー(テレパシー)となって我々の身体の細胞の一つ一つに影響を与えると同時に空間へも拡がって行く、すなわち身体はそのような発信器であり同時に受信器でもあること、したがって“むしの知らせ、胸さわぎ、……”などの現象も説明できることになろう。

これは“百匹目の猿現象”⁵⁾にも示されているように(或島の猿が芋を洗って食べることをやり出すとそれがその島の猿に伝わるばかりか他の島、他の離れた地の猿達も遅かれ早かれ芋洗いを始めるというように、)動物の世界では普通に起こっている伝播現象である。いや動物

ばかりか植物においても果ては鉱物までも、それぞれの波動を放射し、また受信してお互いが影響し合っている。このような相互伝播作用が人間も含めて地球全体で、また宇宙全体で行われ、乱れや不調和が生じている場合は人間では病気、事故、ケガ…等となり、地球では天変地異となって調和の方向に修正が行われているということのようである^{6), 15)~18)}。

このように人間界・自然界、いや宇宙は波動の世界となっており、現在の人類はその物質科学、五感科学、三次元科学のゆえに種々の波動を受信する“受信器”の機能が退化してしまっていると思われる。とはいえ、我々の場合でも五感を越えた波動域(潜在意識等)からの受信を、インスピレーション、ひらめき、ふとした思いつき、……等と表現している。そしてそれによって独創的な研究が数多く生れてはいるが、上記の表現は減多にないことの代名詞でもあり、通常はかなり追い詰められた状態にならないと現われてくれないものではある。これを日常の状態とする方法を少なくとも一般の人々は持ち合せていない。

しかし、世の中にはそのような“超能力”を持っている人が沢山いる。その能力取得の経緯は臨死体験を経て⁶⁾等、あるいは瞑想や陰徳の積み上げにより⁷⁾等、あるいはまた或日突然にその能力が明瞭になったりと人様々である。それによって“時空”をこえることができ、過去ばかりか現在、未来が見透せるようになり、また植物や動物等の“声”も判るようになっている。そのような例は枚挙にいとまがない。例えば岡山の近藤和子さんは、飛行機で檜の植木鉢を運んでいたとき、じっと見つめたその緑の葉から「私の葉の中には人間の体に良いものが沢山ありますよ!、研究してみませんか?」という声を感じたのがきっかけで⁸⁾今の化学薬品に代わる予防医学・健康に役立つ檜茶、化粧品類、洗剤、……等を創り出された^{12) P112}。また以前本学の工学部におられた政木和三先生は、数百件を優に越える無欲の発明によって積み上げられた陰徳により50才頃から“時空”を越える能力が与えられている⁷⁾等。文献6)の仙北谷光霊氏は、子供の頃から未来が良く見えていたが、

20才代で大病となり霊安室までおろされるといふ臨死体験を経たことで、実は数億年前、別の星からこの地球に移ったこと、その後の地球の状態も含めた自分の過去世のこと、などが見えるようになり、また身体の細胞の一つ一つどころか原子核の中の様子も見えるという驚くべき能力を持たれたようである。この辺りまで話が来ると、眉にツバをつけられる方々が一段と増えてくることが予想される。筆者はこのようなことに対して、「人それぞれ得意の分野があるが、自分の専門分野でもいろいろな説が出て理解しにくい面があること、ましてや他の専門分野は……、と同様、この超能力の分野も我々の科学・工学の分野とは桁違いに広く深く大きいものではあるがそのような専門分野の一つである、という理解の仕方もあり得る」、と考えている。そして、このような“超能力者”や“現代科学にとらわれない人々”の述べておられる事項のうち、共通する部分、すなわち“因数分解”でカッコの外に出せる部分などはそれが現代科学に沿わないものであってもかなり確かなこととして受け取ることにしている。

そのような受け取り方で来るべき21世紀がどんなものになるのかの話のを要約してみた。

・21世紀へのハードル：21世紀に移る前にこさねばならないハードルがあるような気配である。我々はこれまで身勝手に地球を汚し続けてきたし、同時に“闘争”の念波を発し続けてきたが、人間や地球の波動が良いものになるためには地球上で大きな“決算”が必要のようである(阪神大震災もその一つ?)。地球には過去にもそのような例が幾度かあったと説かれてもいる^{6), 9), 10)}等。しかし、それは何とか防げるといふ話もある。

・資本主義の崩壊：これは会社が皆つぶれるということではなく、人を犠牲にしてまでも利潤追求を優先し、経営方針とする会社は次第に成り立たなくなっていくという意味である。エゴのない、あるいは少ない人間が増えるにつれて人々は儲け第1主義の会社やお店を見抜いて自然とそれを敬遠するようになり、反対に客の立場や喜びを優先する会社の方に行くことになる。現在でもそのような方針で発展している

会社やお店は数多くあるが、21世紀ではそれへの移行が加速度的に進行する。

・21世紀のエネルギー：石油エネルギーはやがて底をつき、原子力エネルギーもなかなか進展して来ない。このまま地球上の人間が消費エネルギー拡大の生活をして行けば……、という懸念は強まるばかりであるが、どうやら心配無用のようである。例えば自動車用のエネルギーはガソリンでもなく電気でもなく、水を簡単に水素ガス分解して使うことに成功したようであり^{9), P42}等、それよりも根本的に空間から電気を取り出せる技術が次々と開発されているようである^{9), 11), 12)}等。

・21世紀の食糧：地球人口はこのままでは55億がやがて100億になると考えれば、エネルギー同様、近い将来の大問題となるが、これも心配無用のようである。例えば、文献¹⁴⁾に示されているように砂漠はもとよりどんな土地でも、農薬や化学肥料も不用で作物がつくれるEM(有用微生物群)の利用が可能になっている。このEMは食料のみでなく地球環境や我々の健康問題にも広く利用できるようである^{11), 12), 14)}。

・21世紀の医療・健康：ベストセラーである“脳内革命”¹³⁾が科学的根拠に基づいて説くところは、エゴを無くして常にプラス思考をし、物事を良い方にとらえて人を楽しい気分になせ、世の為になる生き方をするほど脳内モルヒネがどんどん分泌されて、病気に無縁となり若々しく健康で長寿が保てる、ということである。文献⁶⁾の著者も説いておられるように、我々の“想い”はプラスであれマイナスであれ、身体の細胞の一つ一つに直ちに影響する。となれば我々のこれからの生き方に大きな示唆が与えられていることになる。21世紀の人間は今よりずっとエゴの少ない者ばかりになるので、上記のような状況となり病気になっても自分で波動的に治せる人も多くなろう。そこまで行かない人達も例えば文献¹⁵⁾のようにその手法が示され、また治療器等も作られるので心配は要らない。また食物等の波動的評価(免疫性、ストレス性、ガン、高血圧、恨みの念、妄想の念、……等への効果、影響の程度の評価)も文献¹⁶⁾のように定量的に測定値として示せるようになって

ているので、身体や精神に害のある食料類はさけることができる。すなわちお医者さんは次第に不要になる方向に変わってゆく。

・あの世との関係：我々はこの世がすべてと思ってしまうが、実はあの世がすべてでありこの世はあの世の一部になっていること、我々は今まであの世とこの世を何百回、何千回、…も往復していること(輪廻転生)^{6), 18)~22)}、といえればかつての天動説から地動説に変わったときと同じになるかも知れない。輪廻転生は文献18)のように精神療法の治療などにも利用されている。

さて、21世紀は我々の波動が細くなると共にあの世と連絡のとれる人が増えてくると思われるが、そうでない人でも例えばテレビのような技術によってあの世の人達に気軽に会えるようになるそうであるから楽しみである。

あの世とこの世の関係、生活の違いは文献18)~22), 24)等に述べられているが、上述のようにあの世がより身近(?)になり、人間の質も充分向上すれば、気軽に往き来できるようになり、最終的には肉体を持たなくてもよくなる(≡神)のではないかと考えている。

以上いろいろな文献を参考にして21世紀の様子を探ってみたが、現在はマユツバと思われるであろうことも敢えて含めれば21世紀は何か大いなる希望が持てそうである。ちなみに、引用文献の著者には、医師、医学者、農学、応用物理、電気工学、電子工学、……等を専門分野とする方々が数多く含まれていることを付記しておきたい。これをきっかけに皆さんの“ひらめき”(=潜在意識界への直結状態)の出現が少しでも多くなればまことに幸いである。

肩にツバをつけないで、あるいは多少はつけても最後までお読み下さった方々には、まことに“多謝”である。

文 献

- 1) 池田頼信；5秒で予知する事故死・突然死；たま出版，1995年
- 2) 弘原海清；前兆証言1519；東京出版，1995年
- 3) 山口令子；「気」には無限の力がある；三笠書房，1990年
- 4) 天外伺郎；「超能力」と「気」の謎に挑む；講談社，1993年
- 5) 船井幸雄；百匹目の猿；サンマーク出版，1996年
- 6) 仙北谷光霊；宇宙と健康；草の会；無明社出版，1995年
- 7) 正木和三；未来の発想法；東洋経済新報社，1996年
- 8) 近藤和子；檜の葉が世に出るまで…；月刊BMD都市21 Vol.2, (株)BMD企画, 1996・6
- 9) 深野一幸；地球文明の超革命 一宇宙エネルギーが世界を変える一；広済堂出版，平成4年
- 10) 南山 宏，鈴木 旭，幸沙代子，高橋良典他；世界超古代文明の謎；日本文芸社，1996年
- 11) 船井幸雄；最先端の世界，本物の世界Part ①；ビジネス社，1995年
- 12) 船井幸雄；船井総研プロジェクト本部一時代が変わる，本物の時代がくる！；ビジネス社，1995年
- 13) 春山茂雄；脳内革命；サンマーク出版，1995年
- 14) 比喜照夫；地球を救う大変革 一食料・環境・医療の問題がこれで解決する一；サンマーク出版，1993年
- 15) 富原平八郎；超波動療法と超能力；たま出版，1994年
- 16) 萩原弘道；波動こそが病気を治す一ガンを防ぐ，免疫力を高める一；PHP研究所1996年
- 17) 江本 勝；波動の幸福論；PHP研究所，1996年
- 18) 五井昌久；神と人間；白光真宏会出版本部，
- 19) 天外伺郎；ここまで来た「あの世」の科学；祥伝社，平成6年(1994年)
- 20) 天外伺郎；未来を開く「あの世」の科学；祥伝社，平成8年(1996年)
- 21) 今村光一；霊魂転生の旅人一人間は生まれ変わる；日本文芸社，昭和56年
- 22) ブライアン・L・ワイズ；前世療法一米国精神科医が体験した輪廻転生の神秘；PHP文庫，1996年
- 23) 船井幸雄；人間の研究 一完結編一；PHP出版，1996年
- 24) 村田正雄；私の霊界通信1～5巻；白光真宏会出版本部